

平成29年度 学校アンケート集計結果(教職員)(平成29年12月実施)

資料3

	評価項目	評価指標 (評価の観点)	評価 (%)	概 評
①	豊かな教養の修得を目指した、意義ある学校生活の創成への取り組み	・ 知的好奇心や探求心を高める学校行事を実施することができたか。	A 19.4	A、B合わせて97.2%と大部分が肯定的で、生徒は各行事に主体的・自主的に取り組み、効果も上がっていると評価できる。更に主体的・計画的な取組をさせるには、学校側の準備や担当教員のアドバイスが必要だという意見や、もう少し時間的余裕があれば、探求心・創造性がより深まるのではという意見、文系の講演会等を更に充実すべき等の意見が寄せられた。自由研究については、推進のための工夫・努力がなされたが、更に丁寧なガイダンスや、探究的学習との関連性を考慮した実施計画が必要であるとの指摘もあった。
		・ 生徒の自主的研究活動である「自由研究」を推進することができたか。	B 77.8	
②	学力向上・進路意識の高揚と生徒の自己実現の支援	・ 各教科、各学年、各部、各委員会が緊密に連携を深め、生徒のバランスの取れた学力の伸長に努めることができたか。	C 2.8	
		・ 各界で活躍する本校卒業生を活用し、キャリア教育の充実を図ることができたか。	D 0.0	
③	諸課題の把握と積極的対応	・ 保護者や地域のニーズを把握し、ホームページの充実等積極的な情報発信に取り組むことができたか。	A 19.4	A、B合わせて91.6%と概ね肯定的評価で、「各部署の連携は良くなってきた。更に連携を深め、生徒の学校生活の充実につなげたい」との意見がある一方で、「連携はあまり深まっていないが、学力の伸長には努めた」、「各教科の連携が必要だ」、「連携という点では努力が必要だ」、「横の連携は更に深めた方が良い、日頃からこまめな情報交換が必要」、「教科・学年・部等の連携を深めるためのアイデアが欲しい」等の意見も見受けられ、更に努力や工夫が必要だと考えられる。
		・ 生徒の実態を把握し、適切ないじめ防止対策をおこなうことができたか。	B 72.2	
③	諸課題の把握と積極的対応	・ 保護者や地域のニーズを把握し、ホームページの充実等積極的な情報発信に取り組むことができたか。	C 5.6	
		・ 生徒の実態を把握し、適切ないじめ防止対策をおこなうことができたか。	D 2.8	

評価基準 A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する D:一層の努力を要する

平成29年度 学校関係者評価結果(学校評議員5名:平成30年1月実施)

- ・ 歴史のある本校で、日々生徒の指導にあたる教職員の取り組みに感謝とねぎらいの言葉がありました。
- ・ 生徒は宇女高が楽しいと感じているようだが、先生方が生き生きと授業や生徒の指導にあたるような学校運営に取り組んでほしい。
- ・ 大学入試の先を見据えて議論し、具体的な取り組みを工夫してほしい。
- ・ UJOKOZAについては、学校評価アンケートの結果を踏まえて、よりよいものにしてほしい。ただし、生徒・保護者のニーズに応えるだけでなく、生徒の将来を見据えて改善に取り組んでほしい。先生方一人一人の良さを活かす視点、連携を高める視点の両方が大切ではないか。